



ユニバーサルカフェ カルペ



レストラン・喫茶カルペ



宅配弁当 カルペ

株式会社 カルペ・ディエム
URL: <http://carpe-obento.co.jp>

- 【本店カルペ】
福岡県福岡市早良区有田 7丁目 15-22-2
- 【レストラン喫茶カルペ】
福岡県福岡市中央区荒戸 3丁目 3-39 (福岡市市民福祉プラザ 1F)
- 【UNIVERSAL CAFE Carpe】
福岡県福岡市中央区天神 1丁目 8-1 (福岡市役所 1F)
- 【コインランドリー CARPE DIEM】
福岡県福岡市早良区有田 7丁目 15-24

業務の細分化と適材適所が 利用者の成長と自立を促し ノーマライゼーションの実現へ

就労継続支援 A 型事業を展開し、宅配弁当店、レストラン、カフェ、コインランドリー、清掃請負と、障がい者に様々な就労場所を提供している『カルペ・ディエム』。目指すのは利用者が自立し、誰もが対等で幸せに生活できる社会の創出。そのために西田社長は、適材適所を意識した人員配置で個々の能力を伸ばすなど、独自の方針で成果を上げている。本日はタレントのダンカン氏が社長のもとを訪問し、インタビューを行った。



ダンカン

障がい者の可能性を示すべく 就労継続支援事業を推進

——西田社長は、どのような経緯で御社を立ち上げられたのでしょうか。

以前から医療や福祉に関わってきて、障がい者就労支援にも携わっていました。その中である時、コンビニで買った質素な食事で済ましているという利用者さんの話を聞きまして。「これではいけない」と思い、「しっかり食べて元気に働く」というコンセプトで障がい者支援に注力しようと、就労継続支援 A 型事業を行う当社を立ち上げたんです。

——では、やはり「食」に関する事業がメインで？

はい。まずは宅配弁当事業からスタートしました。そこからレストラン、コインランドリー、清掃請負などへ徐々に広がっていったんです。2021年4月からは、

After the Interview ダンカン

「カルペ・ディエム」さんでは、利用者さんの能力を見極めて現場の戦力としてしっかり働いてもらう方針により、一般的な就労継続支援事業所よりも賃金が高いそうです。スキルを身に付け賃金も充分にいただいてこそ、自立につながるもの。障がいのある方の自立を心から願う西田社長だからこそ確立できた事業モデルでしょうね。誰もが真に対等に生きられる世の中の実現は、社長のような方が一歩ずつ進められるんだと実感した対談でした」

代表取締役

西田 英司

佐賀県生まれ、佐賀県育ち。「岡山商科大学」商学部商学科卒業後、量販店販売日本一の老舗和菓子メーカー鹿児島支店で営業マンとして活躍したが、父親の急病により地元の病院に転職した。そこで精神保健福祉士の資格を取得。精神障がい者の医療と福祉に携わる中で地域福祉への思いを強める。新規の就労支援施設の運営と管理業務を経験し、さらなる利用者へ寄り添った支援を、との思いで「カルペ・ディエム」を立ち上げた。



福岡市役所の『ユニバーサルカフェ』を運営させていただくことになり、行政とも連携しています。こちらは基本的に障がい者が中心となって運営しています。

——それはすごいですね！しかし失礼ながら、運営する上で苦勞されることもありそうですね。

数年前にこの事業を始めようとした際にも、「無理だ」と周囲から言われました。それも、決まって福祉関係者からです。だからこそ、私は彼らの可能性を証明したいと思ったんです。そして、それは実際に可能だったとここで断言させていただきます。確かに、教育には非常に時間がかかります。しかし、一度ノウハウを身につければ、貴重な戦力として長く定着して頑張ってくれる方ばかりなんです。今のところは役員が様子を窺いに店舗に顔を出しますが、近いうちに完全に彼らだけで任せられると確信しています。もちろん、教育に際しては様々な見極めや工夫が必要で、その中で私が常に念頭に置いてきたのが「適材適所」と「仕事の細分化」の2点です。

個々の強みを見極め活かすことで 成長と自立を実現

——詳しくお聞かせいただいてもよろしいですか。

たとえハンディキャップがあっても、それぞれ必ず得意な分野があります。業務内容を細かく分けることによって、そうした個々の強み・能力を発揮できる場所を見極め、その人に合った働き方を提供しているんです。弁当事業から始まった当社がコインランドリーや清掃受託などに広げてきたのも、そうした適材適所を考えた結果です。

——素晴らしいですね。そこまで真剣に向き合っている方は、そういないと思いますよ。とは言え、ここまで基盤を固めるのは簡単なことではなかったでしょうね。

もちろん、簡単にはいかないし甘くはありません。それでも、健常者や障がい者に関係なく、皆が一人の人間同士として向き合える世の中であってほしいですし、まずは当社をそのような場所にしたと考えています。逆に言えば障がい者だからと甘やかすようなこともしません。生きる力を付けようとする前向きな意思がなければ、利用者さんも当社では続かないと思います。過去には高校新卒の全盲の男性が入社し、ハンデに負けず頑張っていました。その姿に刺激を受けた社員たちは、道具は徹底して元の位置に戻すなどの整理整頓の意識が高まり、相互に成長していったんです。その男性は、電話応対や請求書作成など事務的ス

キルを身に付け一般企業へと進んでいきました。また、計算が苦手な重度の知的障がいのある男性に電卓の使い方を根気強く数年かけて教えていった結果、発注数から製造分量を算出し一部の製造を任せられるまでに成長しました。

——ご立派です！そうした正の循環を現場で生むことができるのも、社長の理念が皆さんに伝わっているからこそでしょう。

いえいえ、人材に恵まれたのです。利用者さんも社員も皆よく付いてきてくれていると、本当に感謝していますよ。もっと多くの障がいのある方々やその周囲の人に当社の存在を知ってほしいですし、そのためには行政や一般企業とも協力していきたい。市役所カフェに入らせていただいたのも、その一環です。真のみんながやさしい、みんなにやさしい社会の創出のために、今当社にできることを精一杯頑張ります。

(取材 / 2021年10月)

